NCJTA NEWSLETTER
北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association
http://www.ncjta.org
第 55 号・2021 年　9 月発行

Contents:

会長挨拶/秋の例会について… 1-3　会計から…3-4　秋の役員会議事録… 4　春の例会報告… 5
言葉の窓…5-6　お知らせ…6-8　先生の紹介…8-11　私の学校でこんなことが…11-15　役員連絡先…15-16

会長挨拶

会長挨拶
伊藤潤子

お忙しい毎日をお過ごしのことと存じますが、皆様、お元気でいらっしゃいますか。今年度、会長を務めさせていただくことになりました、カリフォルニア大学デービス校の伊藤潤子と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

夏休み中、アンケート調査や高校代表の承認にご協力いただき、ありがとうございました。メールでご承認いただき、高校代表はデービス高校のマケール尚子先生にお願いすることになりました。また、アンケート調査の結果は添付ファイルでご覧いただけます。北カリフォルニアの日本語教育の現状を把握し、会員の皆様お一人お一人の声を反映しながら活動していきたいと思っております。

コロナパンデミックがいつ収束するのか、これからどうなるのか、皆様、大きな不安を抱えながら教えていらっしゃると思います。こういう時こそ、互いにエールを送り合える、教師同士の「繋がり」が必要になるのではないでしょうか。

北カリフォルニアには、アイデアを駆使して教えていらっしゃる、素晴らしい先生がたくさんいらっしゃいます。今年の秋の例会は「今後の日本語教育を考える」をテーマに四人の先生に発表していただく予定です。また、11 月と 3 月には Zoom でレベル別の勉強会（情報交換会）も予定しております。奮ってご参加ください。例会や勉強会で皆様とお話しできるのを、役員一同、心待ちにしております。

秋の例会

今年度の秋の例会は 10 月 16 日（土曜日）にオンラインにて開催されます。会員の方は、事前登録の上、無料でご参加いただけます。非会員の方は、当会のウェブサイト (https://ncjta.org) にて、まず会員になっていただく必要があります。例会の事前登録は以下のサイトで行えます。 参加者の方々には、10 月 10 日（日曜日）に Zoom リンクをメールでお送りします。

NCJTA 秋の例会 2021 登録フォーム：https://forms.gle/zXLmEzNfM4MEtgk56

テーマ：「今後の日本語教育を考える」

日時：**10/16**（土）**1 pm - 4 pm (via Zoom)**

1:00 pm - 1:10 pm
会員の方へのお知らせ

1:10 pm - 1:55 pm
今後の日本語教育への可能性を探る
「交流会」の実践をもとに
高原京子（カリフォルニア大学バークレー校）山川史（小樽商科大学）

本発表では、まず、コロナ禍でアメリカと日本の日本語学習者同士をつなげる活動の一つとして行った「交流会」の実践を紹介します。そして、それをもとにつながりの意義について再考し、今後の日本語教育への可能性の提言を行います。その後に続くディスカッションでは、参加者はブレイクアウト・ルームでグループに分かれ、コロナ禍での授業実践から学んだことなどを共有し、今後それらをどのように活かしていきたいのか、また日本語教育がどう変わっていくべきかなどについて話し合いたいと思います。

1:55 pm - 2:40 pm
オンラインハイブリッド **(Bichronous)** コースの一例 **–Asynchronous Session** の意義**–**
高坂聖子（サンフランシスコ州立大学 / シティカレッジオブサンフランシスコ）

ポストパンデミックという言葉を頻繁に耳にするようになりましたが、まだ社会は不安定な状態が続いています。対面授業に戻られた先生方も緊急の場合、一時的にオンラインに移行する可能性もあるのではないでしょうか。このような状況の中、クラスの一部を Asynchronous Session にするということはどのような意義があるのでしょうか。サンフランシスコ州立大学のオンラインティーチングワークショップで学んだことを基にオンラインハイブリッドコースの一例を紹介します。まず、どうしてハイブリッドなのか、ハイブリッドのスケジュールの一例の紹介、オンラインティーチングでの三つの心掛け（Resilient Course Design /Enhancing Instructor Presence /Building Community）とその具体的なアクティビティー紹介、そしてハイブリッドのメリット・デメリット、最後に今後の課題について皆さんと話し合いをしながら進めて行きたいと思います。

2:40 pm - 2:50 pm
休憩

2:50 pm - 3:50 pm
“Less is more.” - 対面授業でも遠隔授業でも使えるアイデア-
木内厚子（エルクグローブ高校 / 加州日本語教師会会長）

2020 年、コロナ禍で遠隔授業になり、授業時間が大幅に削減されたことが、”Less is more."という言葉を再考し、自分のカリキュラムを見直すきっかけになりました。本発表では、まず、アーティキュレーションの一環として、今、高校の日本語教育で求められていることについてご紹介します。その後、遠隔授業でも対面授業でも使えるアクティビティーの一例をご紹介し、実際に授業にどのように取り入れることができるかを話し合います。”Less is more."を皆さんにも考えていただけるきっかけになればと思います。

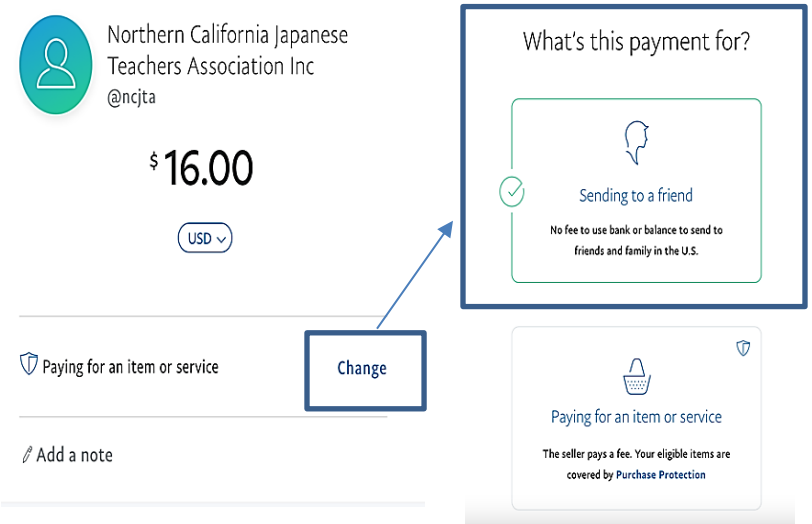
3:50 pm - 4:00 pm
終わりの挨拶

今年度の秋の例会はハンズオンアクティビティを含め、盛りだくさんの内容となっております。奮ってご参加ください。

NCJTA 会計から

NCJTA 会計から

ＮＣＪＴＡの年会費は、一般 16 ドル、学生 6 ドルです。2021 年度の会費（2021 年 1 月 1 日から 12 月 31 日まで有効）を未納の方、もしくは新会員の方はオンライン(https://ncjta.org/membership.html#howto)で申し込みの上、PayPal(ncjtap@gmail.com)かクレジットカードで納入をお願いします。PayPal でお支払いなさる場合、Paying for an item or service の右の Change を押し（下図左）、”sending to a friend”（下図右）をお選びいただくとこちら側に手数料がかかりません。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



なお、チェックでのお支払いを希望される方は、ncjta21@gmail.com へご連絡ください。

（文責：矢幡、望月）

秋の役員会議事録

秋の役員会議事録

2021 年 8 月 8 日（日）午前 11 時～午後 12 時 25 分　Zoom にて
出席者:　伊藤、今川、加藤、斉藤、永田、マケール、南、望月、森山、矢幡、熊倉（記）

1. 報告・連絡事項の確認

1) 会計からの収支報告（2021 年 2 月から 7 月末まで）
2) 秋のニュースレターについて
3) 秋の例会について　日時：10/16（土）1- 4 pm　場所：Zoom
4) 新しいグループメールについて
（2021 年）会員のグループメール（2020 年と 2021 年の会員の方のみ= 計 61 名）　ncjta2021@googlegroups.com

5) 役員共有の Google Drive
Google Drive に各担当の業務内容、会員名簿、役員名簿と任期、グラント申請に関する情報、議事録、ニュースレターなどを保管しておく。

2. 例会発表者の方への謝金について

- 例会で発表してくださる方に今後は会員／非会員とも謝金を支払うことにする。
- 交通費は別（オンラインの場合交通費はなし）
- こちらが依頼した場合だけでなく、発表者全員に謝金を支払うことにする。

3. ウェブサイトについて

- 新しく立ち上げたウェブサイト：https://ncjta.org

4. 今後の活動について

- 勉強会（情報交換会）について
11 月と 3 月にズームでレベル別の勉強会をすることにする。トピックはアセスメント（オーラルとライティング）にする。

- 春の例会のトピックについて
勉強会のトピックが「アセスメント」なので、「プロジェクト」はどうか？

（文責：熊倉）

2021 年
春の例会報告

春の例会

今年 4 月 11 日に、北加日本語教師会春の例会が行われました。今回はオンライン教育に実績豊富なウィスコンシン大学の前田真柄先生をお迎えし、「ポストコロナの日本語教育：同期・非同期アクティビティを活かした学習モデルとカリキュラム・リデザイン」というテーマで、オンライン講演をしていただきました。

講演では、同期・非同期オンライン学習、ブレンド学習、反転授業などの異なる学習モデルについて、そのメリット、スケジュール例、授業構成、カリキュラムなどを説明していただきました。また、大学初級日本語クラスの実践例と共に、様々なオンラインツールやその使用例なども紹介していただきました。

お話しの後で、グループに分かれ、ポストコロナの日本語教育における同期・非同期のアクティビティーの活用について話し合う機会が設けられました。今後全て対面授業に戻った際に、オンライン授業での経験がどのように活かせるのか、また、対面授業とオンライン学習を組み合わせて効果的に授業に取り入れていく工夫について活発な話し合いが行われました。

（文責：今川）

『言葉の窓』

『 遠隔授業における語学教育と課題 』

矢幡ペターソン和美先生
San Francisco State University/Ohlone College

今学期は 101（日本語一学期目）のクラスをリモートで教えています。去年に比べ、学生達がリモートに慣れているのを感じます。ペースに遅れがちな学生には早めに声をかけることに注意しつつ、「日本語を勉強するのは面白い！」と感じられる瞬間を作り出せるよう心がける毎日です。大学レベルでよく使われ、去年から新しくなった教科書「げんき」第 3 版は、誰でもスマートフォンにダウンロードできる OTO Navi Sound Navigator が付属教材として用意されています。LL (Language Lab)に通うのが当たり前だった時代に比べると雲泥の差です。授業の予習や復習に効果的に使えば、日本語学習者の聴力を鍛えるだけでなく語彙の習得に役立つはずです。

遠隔授業の利点はどこからでもアクセスできること、通学・通勤の時間短縮、情報やフィードバックの共有が即時にできることなどが挙げられるでしょう。前回の例会で、小学部の先生が発表されていた、「オンラインになって、話す力が向上した」というご意見を、私はとても興味深く受け止めました。私自身も、そう感じることがあるからです。子供の言語発達において、心理的安全性が高いほど言語習得が早くなると言われているように、遠隔授業においては学習者がリラックスできる環境で学べるということにも関係があるかもしれません。日ごろは発言が少なく静かな印象の学生がのびのびと学習している様子もわかります。Discussion/Forum などの機能を使えば、ネット上でチャット

のようなコミュニケーションが生まれ、SNS (Social Networking Service) 世代には親しみやすく、楽しみながら学べるでしょう。

その一方で、教師側から見れば、瞬時に確認できないこと、反応が掴みにくいこと、カンニングの防止対策に頭を悩ませるなどの難点はあります。私もまだまだ勉強中ですが、評価の仕方を変えていくなど柔軟な対応も必要かと思います。また、WiFi の環境が整っていなければ Zoom は遮断され、十分なペアーワークができません。対面であればスムーズに進むリアルタイムの練習は、オンラインでは無理が生じてしまいます。先学期に教えていたサンフランシスコ大学、オローニー大学の学生たちは、オンラインだからこそ受講できた数人の学生を除けば、全員が対面授業に戻りたいと言っていました。

今後、双方の利点を生かすことで、理想的な教育のあり方に変わっていけることを期待しています。どんなにテクノロジーが発達しても、人が社会的な健康を保つために対面での交流は、やはり、欠かせないと思います。時代の要請にあったコースを提供するため、さまざまな方面からのトレーニング及び理解が必要だと感じています。

最後に、オローニーカレッジの CLW(College Learning Week) のことをお伝えします。学生達の現状理解を深めるために用意されていたセッションで、Walt Whitman の”Be Curious, Not Judgmental” という言葉の引用に始まり、家族の中で初めて大学に進学している学生や、フルタイムの仕事を持ちつつ家族の世話をしながら受講している学生、ESL(English as a Second Language) の学生など様々なバックグラウンドの学生達がパネルとして参加していました。その中の一人の学生の声をお届けします。

Top Five Things I (Student) wish my Professors Knew

1, Everyone learns differently
2, Tests = Stress
3, How we communicate with each other matters!
4, We want to understand you as well
5, Everyone has something going on in their lives

当たり前だと受け取れるかもしれませんが、忘れないようにしたいと思いました。

秋学期が、心身ともに健やかで、実り多い学期になりますようお祈り申し上げます。

お知らせ

お知らせ

総領事館インフォメーションセンターからのお知らせ

JET プログラム参加者募集のお知らせ

在サンフランシスコ日本国総領事館は、以下の日程で JET プログラムに関するオンライン説明会を実施予定です。日本語学習者をはじめ、同プログラムにご興味・ご関心をお持ちの方々のご参加をお待ちしております。

10 月 5 日　（火）12:00～13:00
10 月 13 日（水）17:30～18:30
10 月 21 日（木）12:00～13:00
10 月 25 日（月）17:30～18:30
11 月 3 日　（水）12:00～13:00

以下のページで、参加のご登録を受け付けております。
https://www.sf.us.emb-japan.go.jp/itpr_en/jet_info_sessions.html

JET プログラムの概要：https://jetprogramusa.org/
メールでのお問い合わせ：jet@sr.mofa.go.jp

（在サンフランシスコ日本国総領事館 石井由実子）

News from The Japan Foundation, Los Angeles

Lena Kelly

My name is Lena Kelly and I am the Associate Program Officer at The Japan Foundation, Los Angeles! We have information that we would like to share: Interested in a grant opportunity which brings a young assistant teacher from Japan to help strengthen and enhance your K-12 Japanese language program? J-LEAP (Japanese-Language Education Assistant Program), co-administered by Laurasian Institution and Japan Foundation, is currently in its tenth year and is now accepting applications from host schools for the 2022 cycle! Read more about it here at https://www.jflalc.org/jle-j-leap ! Have you participated in Japan Foundation's 2018 Institutional Survey? 2021 Japan Foundation Institutional Survey is coming right up, and we will be sending out our surveys via email. We hope that the survey will accurately reflect the current state of Japanese language education and will give us a bigger picture on the changes that have taken since 2018. Every survey result is important, so we look forward to receiving as many responses as possible and if there are any changes to your email, new institutions, and if there's ever any questions, please do not hesitate to contact us at any time at survey@jflalc.org . Also in these recent months, we have continued to have Japanese Cinema = Japanema online. We used to have the films playing in our auditorium but during COVID, we have transitioned to online cinema. Japanese movies are available during 24-hour period on our website and all of the films have English subtitles. For our weekly virtual events on Facebook Live (**www.facebook.com/JFLALC**), we have recently added a new program for our Wellness Wednesday series! It's called "Karate Exercise" and you can experience some karate moves as well as get some exercise during your lunch break! It takes place on Wednesdays at 12:30PM (PT) every three weeks so make sure to check it out! Lastly, we will be having more virtual events coming up in October and we will list further details in our monthly newsletter so please make sure to subscribe!

日本語プログラム存続のためにできること

昨今、今まであった中学校・高校の日本語プログラムが来年度からなくなってしまうといったお知らせが時々入ってきます。予算の削減や学習者の減少など、その理由は様々だと思います。今後、このような事態に備えて私達にできることはないかと考えていたところ、7 月に参加した JFLA/AATJ Leadership

Training で「Rethinking Strategies Opportunities Support」というお話を伺いました。かいつまんで申しますと、以下の 3 つがプログラム存続に大切だということです。まず、1) Proactive Strategies、つまり既存の日本語プログラムでの実績やデータを集めつつ、退職予定の以前から、積極的に後続できる先生を見つけるといった Strategies、2）学習者のコミュニティーや他の学校の先生とのネットワーク作り、Japan Foundation などからの基金の活用、イベントへの参加などといった Opportunities、3) プログラム存続の危機に陥りそうなサインを見逃さず、どこにどうやってサポートを求めたらいいか知っておく Support の 3 つのことが大事だということでした。特に、3 つ目の Support に関しては、私達 NCJTA にご相談いただいたり、もしくは AATJ/Japan Foundation LA に直接連絡いただくことも可能だそうです。そして、全米規模の団体である AATJ/JFLA から日本語プログラムを存続させるためのサポートレターを書いていただくことで、存続の危機を免れることも可能かもしれません。また、先生方にこの SOS を知っていただき、同僚の先生方にも周知していただくことも大切かと思います。

（文責：斉藤）

先生の紹介

先生の紹介欄

岩田真奈美 先生

- **お名前を教えてください。**
  岩田真奈美（いわたまなみ）です。

- **教えている学校名、町を教えて下さい。**
  サンノゼ州立大学で教えています。

- **日本語教師はいつから？**
  1999 年にカナダのバンクーバーにあるブリティッシュコロンビア大学で講師として日本語を教え始めました。アメリカに移住後、10 年以上のブランクを経て、2016 年に現職に就きました。

- **ご趣味は？**
  料理やお菓子作りなど、キッチンでの作業が好きです。何も考えず、ただ手を動かして料理をしていると、頭も心もリフレッシュできるからです。また、Sur La Table のようなお店でお洒落なキッチン用品を見ているだけで、楽しい気分になれます。日本のドラマも好きで、ドラマを見ながら「今日本で使われている日本語」を学んでいます。

- **日本の出身地は？**
  岐阜です。以前は、日本語クラスの学生に岐阜は東京と大阪の間にある所だと紹介していました。数年前に「君の名は」が有名になってからは、その聖地巡礼ができる所だと紹介すると、アニメ好きの学生は「Oh!」と言ってくれます。

- **アメリカ／カリフォルニアに来てから何年ですか。**
  来年で 20 年になります。

- **仕事について、何か一言お願いします。**
  月並みですが、日本語を教える仕事は私にとって生きがいであり、学びの場でもあります。学生の人生の一コマに関わることができ、学生と共に学ぶことができるのは本当に幸せなことです。
  サンノゼ州立大学では今学期から日本語クラスの半数が対面授業に戻りました。教室内を歩き回り、ペアワークのサポートをしたり、学生全員の声を同時に聞いたりすることが、またできるようになり、対面授業ができる喜びを感じています。それと同時に、対面授業の貴重な時間をもっと有意義に使えるようになりたいと強く感じてもいます。今後は対面、オンライン双方の利点を活かしたハイブリッド型の授業に挑戦してみたいです。

- **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**
  会員の先生方と共に、パンデミック中、パンデミック後のニューノーマル時代に柔軟に対応できる日本語教育を目指すことができればと思っております。秋の Zoom での例会でお目にかかれますことを心より楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

風間彩 先生

- **お名前を教えてください。**
  風間彩（かざまあや）と申します。

- **教えている学校名、町を教えて下さい。**
  サンフランシスコの桑港学園（Soko Gakuen Japanese Language School）で教えています。

- **日本語教師はいつから？**
  2010 年からです。

- **ご趣味は？**
  旅行に行くのが好きですが、最近はパンデミックの影響もあり全く出かけていません。早くまた安心して旅行ができるような世の中に戻ってほしいです。

- **日本の出身地は？**
  千葉県です。

- **アメリカ／カリフォルニアに来てから何年ですか。**
  カリフォルニアに来て 14 年になります。月日が経つのは本当に早いです。

- **仕事について、何か一言お願いします。**
  桑港学園では、初級レベルと上級レベルのクラスを担当しています。大学や高校とは違い、幅広い年齢層の方が日本語を学びにいらっしゃるので、多くの方に興味を持ってもらえるようなクラス作りを心がけています。

- **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**
  はじめまして。学会等で北加日本語教師会の先生方にお目にかかれる日を楽しみにしております。どうぞ宜しくお願い致します。

松村幹子 先生

- **お名前を教えてください。**
  松村幹子（まつむらみきこ）です。

- **教えている学校名、町を教えて下さい。**
  日本語教師はいつから？

  サンフランシスコの City College of San Francisco というコミュニティーカレッジで 30 数年教えています。私が教え始めた頃はちょうどベイエリアで日本語教育が盛んになり始めた頃でした。また日本の経済もよかったので　国際交流基金で教科書、参考書などたくさん寄付してもらいました。コミュニティーカレッジは本当に色々な学生がクラスを取ってくれます。高校生、高校を卒業したばかりの学生、アルバイトをしながら学んでいる学生、留学生、社会人の学生、仕事を退職してクラスをとっている学生など多種多様です。年齢も経験も全く違う学生たちが同じクラスで勉強しているのに接するのは、教師をしていてとても楽しい経験です。お互い助け合って切磋琢磨しています。

- **ご趣味は？日本の出身地は？**
  東京の墨田区で生まれて育ち、その後葛飾区で育ちました。子供の頃はお祭りが大好きでした。「フーテンの寅さん」で有名な柴又の帝釈天も自転車に乗って遊びに行きました。趣味は　表千家の茶道を 30 年ぐらい続けています。お抹茶一服召し上がりたい方はご連絡ください。それから、サンフランシスコのアジア美術館で 20 年ぐらい docent をしています。川柳を読んで大笑いするのも好きです。パンデミックで家にいる時間が長いので、ヨガしたりピラティスをしたりもしています。

- **アメリカ／カリフォルニアに来てから何年ですか。**
  カリフォルニアに来てもう 35 年以上経っていると思います。日本よりカリフォルニアの方が長くなっています。

- **仕事について、何か一言お願いします。**
  この仕事は長く教えていても毎学期新鮮で緊張します。同じコースでも学生は違うし、同じ学生でもコースが違うし。準備しても準備してもいくらでもやることがあるし、採点も次から次へとあるし。私が 30 年以上続けて

こられたのは色々バランスを取りながら仕事をしてきたことだと思います。

- **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**
  なかなか会員の皆さんとお会いする機会はありませんがこれからの日本語教育についお話しできるチャンスがあればいいなあと思いっています。
  よろしくお願いいたします。

学校からのニュース！

私の学校でこんなことが……

昨年度は、オンライン授業ならではのアクティビティーで他校とさまざまな交流を行うことができました。中でも参加者が全員楽しんでくれたのが、日本の三つの高校の生徒さん達と両言語で行った Zoom での交流会。Breakout Room の機能を活用して、グループでお互いの趣味や学校生活、そして将来の夢などのテーマについて自由に話し合ってもらいました。楽しく交流した後、最後に撮ったスクリーンショットの笑顔が印象的でした。

Davis Senior High School
マケール尚子先生

ローザパークス小学校
JBBP
加藤貴子先生

資金集めのオークションナイトは今年はオンラインで行われました。

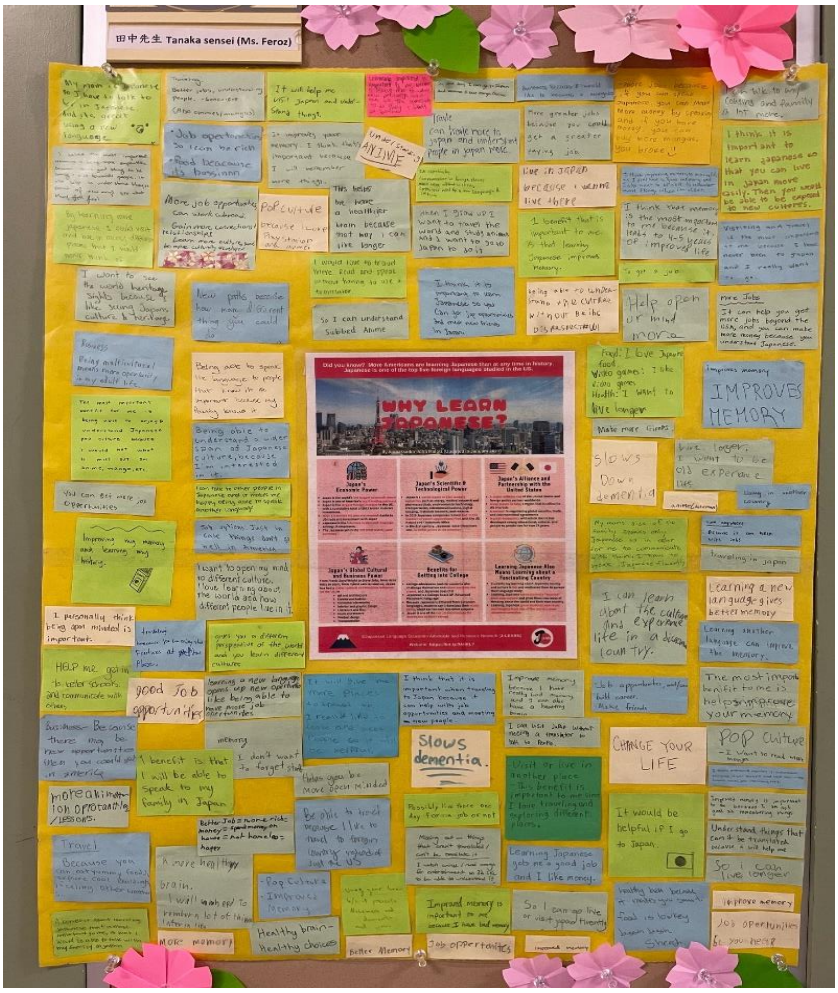
4 月末から教室での授業が再開しました。

「子供の日」にこいのぼりを作りました。

日本語プログラムのお別れ式（卒業式）は Zoom で行われました。
在校生から卒業生へのメッセージ

プレシディオ中学校
田中理恵先生

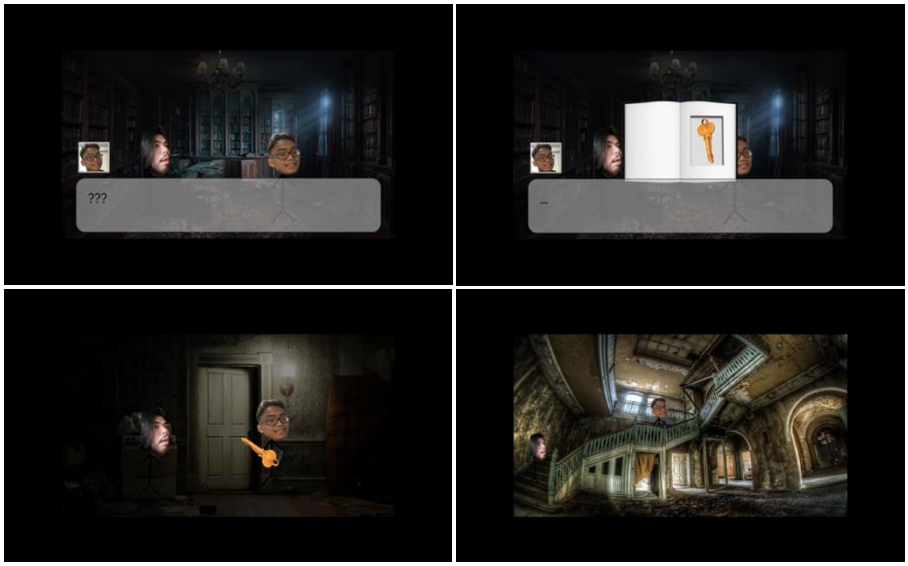
生徒達に自分にとっての日本語学習の benefit を考えさせ、NCJTA のメールで教えていただいた Why Learn Japanese?のポスターと一緒に教室の入り口に貼りました。毎日気分を盛り上げて、久しぶりの対面授業を楽しんでいます。



スタンフォード大学
斉藤百恵先生

＜夏期セミナーへの参加報告＞
「私の学校で…」ではないのですが、HIF 日本語日本文化夏期セミナーに今年春学期にスタンフォード大学で 1 年生を修了した学生が参加しました。毎年行われるこの夏期セミナーは函館で日本語を勉強しながら、ホームステイを体験したり地域社会と交流できるプログラムなんですが、今年は新型コロナウィルスの影響により 5 週間のオンラインによるセミナーとなりました。そこでは Zoom などを使って、地元の学生と交流・協力して函館のゆるキャラを作成したり、またオンライン企業訪問なども行って自分なりに考えた町おこしの提案を発表したりして、有意義な 5 週間を過ごしたそうです。以下は、JTB との対談を通して企画した提案の発表風景と、学生が考えた函館ゆるキャラ（コンテストで見事一位に選ばれました！）。

＜Zoom 授業でのスキット発表＞
春学期、スタンフォード大学の 1 年生 3 学期目のクラスでスキット発表がありました。昨年度はコロナ感染の影響で一年を通して Zoom でのオンライン授業となりましたので、スキットも Zoom での発表でしたが、Zoom ならではの工夫が凝らされた発表が多く、通常の教室ではできなかったことが可能になった利点もあったようです。以下のペアはパワーポイントと音楽を効果的に使った作品を披露してくれました。村上春樹の「海辺のカフカ」にヒントを得たストーリーで、場面ごとに探してきたリアルな背景をパワーポイントに音楽で臨場感のある雰囲気を出し、1 年生で習った文法だけでセリフを考えクラスメートを見事に世界に引き込んでいました。



北加日本語教師会
連絡先

NCJTA Officers

＜事務局＞：https://ncjta.org
NCJTA. c/o Junko Ito
Department of East Asian Languages and Cultures
University of California, Davis
One Shields Avenue, Davis, CA 95616
Email: jito@ucdavis.edu

＜役員＞

会長：
Junko Ito 伊藤潤子（University of California, Davis）
Email: jito@ucdavis.edu

副会長：
Momoe Saito Fu 斉藤百恵（Stanford University）
Email: msfu@stanford.edu

書記：
Akihiko Kumakura 熊倉昭彦（Diablo Valley College）
Email: AKumakura@dvc.edu

会計：
Makiko Mochizuki 望月真紀子（Chabot College/Ohlone College）
Email: mmochizuki@chabotcollege.edu

Kazumi Yahata-Pettersson 矢幡ペターソン和美（San Francisco State University/Ohlone College）
Email: kyahatap13@gmail.com

ニュースレター編集：
Kayoko Imagawa 今川香代子（University of California, Berkeley）
Email: kimagawa@berkeley.edu

Yuriko Miyamoto 宮本百合子 （University of California, Berkeley）
Email: ymcaltabiano@berkeley.edu

ウェブ担当：
Nanako Moriyama 森山なな子 （Bella Vista High School）
Email: nanako.moriyama@sanjuan.edu

FLANC 連絡員：
Masahiko Minami　南雅彦　（San Francisco State University/Kinmon Gakuen）
Email: mminami@sfsu.edu

＜各レベル代表＞

学園・小中学校代表：
Takako Kato 加藤貴子（Rosa Parks JBBP Elementary School）
E-mail: katot@sfusd.edu

Masahiko Minami 南雅彦 （San Francisco State University/Kinmon Gakuen）
Email: mminami@sfsu.edu

高校代表：
Naoko McHale マケール尚子（Davis Senior High School）
Email: nsmchale@gmail.com

コミュニティーカレッジ・大学代表：
Kazue Masuyama 増山和恵（Sacramento State University）
Email: masuyama@csus.edu

Noriko Nagata　永田憲子（University of San Francisco）
Email: nagatan@usfca.edu

Northern California Japanese Teachers' Association